

千厩地区説明会要旨

1 説明会 一般廃棄物最終処分場の整備に関する千厩地区説明会

2 開催日時 令和4年3月5日（土）午後1時から午後2時55分まで

3 開催場所 千厩保健センター

4 参加者 38人(傍聴者は、一関市議会議員5人)

5 事務局

石川隆明副管理者、村上秀昭事務局長、小野寺啓総務管理課長、

千葉晃一関清掃センター所長、菅原彰大東清掃センター所長、

吉田健総務管理課施設整備係長、石川勝志総務管理課主任主事、

Web参加 一般財団法人日本環境衛生センター5名（以下、日環センター）

6 説明

(1) 候補地選定の経過について

(2) 一般廃棄物最終処分場整備基本計画（案）の概要について

(3) 今後の予定について

7 あいさつ

本日は、新最終処分場の千厩地区説明会ということで開催をさせていただいた。

最終処分場は、現在、管内に3か所あるが、その残容量が少なくなっているため、生活に欠かすことができないこの施設を次の世代につなげるために整備しようとしている。

組合では、施設整備を進めるに当たり、住民の皆様の理解を深めていただくことが何よりも大切だと考え、広報紙の全戸配布による周知だけでなく、地域に出向いて説明会を開催している。

説明会は、対象者別に4つの区分で開催している。一つ目は建設候補地の土地所有者を対象とした説明会。二つ目はその周辺の自治会の皆様に対する説明会。三つ目はもう少しその周辺自治会から範囲を広くとらえた地区での説明会。そして、組合管内の住民の方であればどなたでも参加できる住民説明会である。

本日は、地区説明会であり、改めて候補地選定の経緯と現時点の施設整備基本計画の概要について説明する。

皆様には率直なご質問やご意見をいただきたい。

8 説明内容

(1) 候補地選定の経過について

配布資料に沿って事務局が説明を行った。

(2) 一般廃棄物最終処分場整備基本計画（案）の概要について

配布資料に沿って事務局が説明を行った。

(3) 今後の予定について

配布資料に沿って事務局が説明を行った。

9 質疑応答

参加者 整備候補地選定委員会で選定したのは随分前のようだが、私達がこの話を聞いたのは去年からである。また、施設整備検討委員会の委員は一関市と平泉町と広域行政組合の職員11名で構成とあるが、名前を明らかにした方がいい。この人たちが地域のことをわかったうえで千厩が適当であるとしたのか。地域のことも考えて、地域の自治会に相談して選定すべきだと思う。地域においてここがよいとなれば、その後に専門家が来て見て評価するという手順でやるべき。

事務局 選定委員会での選定の経過は報告書としてまとめ、委員の先生方の名前も掲載し、ホームページで公開している。委員7名は、廃棄物処理工学、環境影響評価、動物生態学、地盤工学、環境、放射能、植物生態学、行政の有識者で、岩手大学と県立大学の先生や元振興局副局長である。選定に当たっては、専門的な立場で客観的に見て適切な場所はどこかを検討いただき、4か所に絞られた。委員には現地も調査いただいた。施設整備検討委員会は、一関市の副市長及び環境部門の部課長、平泉町の副町長及び課長、組合の職員などが委員になっている。こちら専門家に助言をもらいながら評価項目を設定し、1か所に絞り込んできた。住民説明会等でも経過を報告しながら進めてきたところである。どなたでもご参加いただける住民説明会、地区説明会、周辺自治会説明会、土地所有者説明会を、これまで60数会場で開催してきている。

事務局 なぜ候補地がここになったのかという話であるが、先ほど説明したとおりであり、一関市と平泉町の全域を対象として選定委員には候補地を選んでいただいた。最初に、法令上、制度の上で規制があり候補地としてふさわしくない場所を除いた。次の段階では、一関市と平泉町の範囲は非常に広いため、ある程度の効率性が必要として、人口重心から半径15キロ以内の範囲で選ぶことにした。それからある程度の交通の便も考える必要があることから、国道や主要な地方道路から1.5km以内の距離という条件とした。結果的に19か所に絞り込まれ、現地調査などを経て4か所に絞り込まれた。ここまでを選定委員会で選定いただいた。それ以降は、一関市と平泉町及び組合の職員で組織する施設整備検討委員会で検討を行った。まずは理想とする施設のあり方を施設整備基本方針として定めた。基本方針は4項目あり、4つの条件を満たす施設を4か所の中から選ぶことにした

結果、千厩町千厩字北ノ沢という場所に絞り込まれた。このような手順で選定をしてきた。

参加者　トラックでの運搬は、配置例を見ると市道構井田鳥羽線側からのように見えるが、もしそこを通行する場合は、何トンのトラックが一日何台通行するのか。現在の道路は広くない。歩道もないが小学生が通学で歩いている。歩道もないところでトラックによる痛ましい事故のニュースも報道されており心配である。

事務局　運搬ルートはこれからの検討となる。配置例は一例であり決定したものではない。運搬は4トン車が1日4、5台程度になると思う。トラックにはあおりなどの飛散防止装置がついている。これまでの説明会でも、親御さんからお子さんが通学するときに心配であるという話をいただいており、運搬する時間帯を調整するなどして対策をしていけると考えているが、意見をいただきながら対応して参りたい。現時点では歩道の設置や取付道路の配置といった具体的な話まではいってない。

参加者　住民からの賛否はとったのか。元に戻ってやり直すべきである。

事務局　意見を伺う方法としては、本日のような説明会や電話、メール、FAXなどいろいろある。決まったことをお知らせしているのではなく、案をお示しして意見をいただき、計画に反映させるという進め方で、様々な方々から様々な機会に意見をいただいくという手段で進めている。アンケートで賛否を取るべきという意見もあるが、組合では説明会で直接話を聞いたり、電話で聞いたりという手段で進めさせていただいているので理解をお願いしたい。

参加者　説明会を60数回行ったとあったが、千厩での説明会は今日で2回である。最終処分場建設候補地は千厩町千厩字北ノ沢ほかが最適と評価したとあるが、この評価に住民は加わっているのか。市街地が近いことが一番の不安の材料である。舞川清掃センターや東山清掃センターは、集落から離れた場所になっている。人間の手で作られた施設に完全なものはないと思う。この頃の気候変動で、熱海や九州のような災害がここでも起こる可能性もある。4つの候補地から再検討をお願いしたい。

事務局　千厩地区説明会としては今回で2回目となるが、千厩を会場としてどなたでも参加いただける住民説明会を令和元年度の第1回目から開催している。いろいろな意見はあると思うが、私どもはまだ説明をしている最中であり、多くの意見をいただきながら検討を進めて参りたい。

事務局　不安については、不安の材料を伺って科学的にどういった対応をしているのかを説明することにより、ある程度解消ができると思うので、不安な部分はお聞か

せいただきたい。

参加者 最初になぜ千円になったのかという話があった。多くの人たちがそう言っているということであれば、提案の仕方が専門的でわからないのではないか。住んでいる人たちがわかるように説明してほしい。

事務局 本日の資料では、一つ一つ説明すると時間を要するため、評価項目のみを記載した。評価項目一つ一つに説明書きがあり、報告書にまとめてきている。不明な点は組合に問い合わせをいただければ回答や資料提供をさせていただきます。

参加者 排水の放流先と思われる北ノ沢川は、川と言えないほど小さい川である。例えば大雨が降った場合には対処できないと思う。そういう場合はどうするのか。

事務局 施設には防災調整池を設けて放流量を調整して放流する。設計のときには、下流側での排水能力を計算する。小さい川でもその能力を前提に防災調整池を設計し、排水対策を計画する。

参加者 交通の便の良し悪しはどこで判断するのか。今の時代は陸送ではなく、空輸もできるはずである。奥の方だと便が悪いということだと思うが、最終処分のごみを容器に入れて空輸できると思う。

事務局 交通の便については、最終処分場のために主要な道路から何キロも道路を整備することは現実的ではないため、一関市と平泉町の人口重心から半径15キロの範囲で、主要な地方道路から1.5km以内の範囲から選定することとした。空輸は相当の費用がかかると思うので、陸送を前提としている。

参加者 このような事業では一番大事なことは地域住民の理解だと思う。科学的に調査して絶対に安全だからといって、ごみとの共生を強いることはできないと思う。なぜならごみに対する本能的拒否反応があるためである。

昨年9月の広域行政組合の定例会議で、勝部前管理者が、この事業は地域住民の理解がなければならぬと言っていた。新しい佐藤管理者はこの姿勢を踏襲しているのか伺う。

事務局 勝部前管理者の発言は、当然のことを言ったのだろうと思う。そして佐藤管理者になっても変わっていないと思う。どの時代になっても住民の理解がないものを行政が進めることは基本的にあり得ない。ただし、やらなければならない事業であることは皆さん理解していると思う。我々は話を伺いながら対応していきたいと考え、このような説明会をしている。

参加者 今までの説明会で心配なことや不安なことなどの声が出ているが、組合の方々はその声に耳を傾けるということがなく、今日まで自分たち路線で進めてきたように思う。住民のための施設を、住民の声を聞かないで押し進める行政の姿勢に

虚しさを感じる。千厩町にとって、準市街地である北ノ沢が最終処分場として、高い評価を得ていることにも異議を感じる。最終処分場優先ではなく、住民が快適に暮らせるまちを最優先に考えていただきたい。

事務局 できれば不安に感じていることを、もう少し具体的にお話いただければ、私どももどのように対策をとっていくかを提案できるかと思う。

参加者 東日本大震災のときの放射性廃棄物が千厩町にもあると思う。それをどこにどのようにしまっているのか。

事務局 おそらく震災後の東電の原発事故で放射能が降り注いだ関係で、公園などの表土を剥いで、それを敷地内に穴を掘って一時保管していることに関する内容と思うが、学校などでも同様にグラウンドの表土を剥いで穴を掘って埋めて遮蔽し、安全に保管していると思う。組合の場合は、放射性物質の関係については、大東清掃センターで汚染牧草を焼却しており、指定廃棄物になるのは8000ベクレル以上となっているが、それより下のレベルにして東山清掃センターに埋立てした。指定廃棄物になった焼却灰は、舞川清掃センターに一時仮置きして今まで保管していた。その焼却灰は、現在、業者をお願いをして処分することになっている。従って、新最終処分場にそのような農林業系の汚染廃棄物や放射線で汚染されたものを焼却して埋立てる予定はない。

10 担当課 総務管理課

千厩地区説明会要旨

1 説明会 一般廃棄物最終処分場の整備に関する千厩地区説明会

2 開催日時 令和4年3月5日（土）午後3時30分から午後5時15分まで

3 開催場所 千厩保健センター

4 参加者 16人(傍聴者は、一関市議会議員3人)

5 事務局

石川隆明副管理者、村上秀昭事務局長、小野寺啓総務管理課長、

千葉晃一関清掃センター所長、菅原彰大東清掃センター所長、

吉田健総務管理課施設整備係長、石川勝志総務管理課主任主事、

Web参加 一般財団法人日本環境衛生センター5名（以下、日環センター）

6 説明

(1) 候補地選定の経過について

(2) 一般廃棄物最終処分場整備基本計画（案）の概要について

(3) 今後の予定について

7 あいさつ

本日は、新最終処分場の千厩地区説明会ということで開催をさせていただいた。

最終処分場は、現在、管内に3か所あるが、その残容量が少なくなっているため、生活に欠かすことができないこの施設を次の世代につなげるために整備しようとしている。

組合では、施設整備を進めるに当たり、住民の皆様の理解を深めていただくことが何よりも大切だと考え、広報紙の全戸配布による周知だけでなく、地域に出向いて説明会を開催している。

説明会は、対象者別に4つの区分で開催している。一つ目は建設候補地の土地所有者を対象とした説明会。二つ目はその周辺の自治会の皆様に対する説明会。三つ目はもう少しその周辺自治会から範囲を広くとらえた地区での説明会。そして、組合管内の住民の方であればどなたでも参加できる住民説明会である。

本日は、地区説明会であり、改めて候補地選定の経緯と現時点の施設整備基本計画の概要について説明する。

皆様には率直なご質問やご意見をいただきたい。

8 説明内容

(1) 候補地選定の経過について

配布資料に沿って事務局が説明を行った。

- (2) 一般廃棄物最終処分場整備基本計画（案）の概要について
配布資料に沿って事務局が説明を行った。
- (3) 今後の予定について
配布資料に沿って事務局が説明を行った。

9 質疑応答

参加者 先日の北ノ沢周辺地区対象の説明会で、建設候補地を北ノ沢地区以外にするつもりはないと組合の方がはっきり発言されたと聞いたが事実か。意見となるが、処分場からの放流水は、北ノ沢川から千厩川に流れてくる。千厩川に流れるので、千厩地区全体の問題だと思う。安心安全な放流水を流すと言っているが、世の中には100%安全なものはないと思う。2年半前には候補地を4か所に絞ったと資料にあるが、今になって行政が説明会を開催したということに憤りを感じる。また、周辺地区では最終処分場を受け入れるという動きもあるようだが、勝手に周辺地区の意見だけで千厩全体としての意見と思われては駄目であり軽率である。千厩地区全体の意見を聞いて、4か所の候補地から1か所に決めるのは、まさに今からだと思うが、そのあたりをどう感じているのか。

事務局 今回は第2回目の千厩地区説明会を開催している。千厩地区説明会という名称で第1回目を開催したのは昨年からであるが、どなたでも参加いただける住民説明会は千厩会場でも初回の令和元年度から開催している。当組合とすれば北ノ沢が最適として絞り込んだという説明をしている段階であるので、現時点では変える予定はないという話をしたものと考える。

参加者 先日、大東清掃センターと東山清掃センターの施設見学に参加した。いずれも山の方であり、迷惑施設とならないよい場所だと思った。運搬ルートにも住宅地や学校もない。また、舞川清掃センターも一関清掃センターも北上川に近く、住宅地もなく山の方でよい場所だと思った。北ノ沢は弥栄の新処理施設建設候補地からの運搬となると薄衣と千厩のまちを通る。周辺には小学校、中学校、駅も病院もある。そのようなところに最終処分場ができるのはいかがなものか。花泉町金沢の候補地は、弥栄の新処理施設建設候補地と近い。どちらも山の方でいい場所ではないかと思う。最終処分場という迷惑施設ができると、まちの方にも、我々の商売にも迷惑がかかると思っている。市では、まちを大切にしたい、住みよいまち、明るいまちということを図っているので、ぜひまちの方の気持ちも汲んでいただきたい。

事務局 花泉町金沢の第2候補地がよいのではないかという話であった。候補地選定委員会で4つに絞り込んでいただき、その後に1か所に絞り込んだときに評価をし

ている。評価結果では、花泉町金沢が2番目で、北ノ沢が最も優位であるとして絞り込みをしている。現在は、その説明をしている段階であるので、次に変えるということではなく、まず説明を尽くさせていただきたいと思う。また、運搬する際には、焼却灰を薬剤処理して固めた状態にするので飛散はしない。運搬するトラックは、あおりで覆って運搬するので、飛散の心配は極力少ないと思っている。運搬の回数も1日4、5台程度である。

参加者 25年間続けると、車が通る回数は45,620となる。まちの人たちはそれを心配しているのではないのか。東山や大東、一関や舞川の清掃センターはどこもまちを通らない。川崎でも千厩でもまちを通ることを商店街の方々は心配する。迷惑施設と言われているものである。通るのであれば山の方を通るなど、みんなに迷惑がかからないようにやってほしい。そういうことから、第2候補地などをもう少し検討していただければいいと思う。私たちはまちから離れた場所をお願いしたいと思っている。

事務局 組合の最終処分場は、舞川清掃センター、花泉清掃センター、東山清掃センターの3か所がある。民家がないからいいのではという意見であった。民家は全ての最終処分場において通らないということはない。舞川清掃センターの上の方には民家がある。東山清掃センターでは放流水の放流先の下流には民家がある。例えば臭いが不安であるとか、飛散するのではないかとといった具体的な不安の元をお聞かせいただければ、対処方法を説明できる。工夫しながら説明するようにしたいので意見を伺いたい。

参加者 私どもから昨年に42項目の質問をした。どの答えもなるほどと思うような答えだが、住民の方々はそれでは納得いかず、住んでいる方たちは心もあるので、安全なレベルだと言われても、そういうわけにはいかないところがある。北ノ沢には若い世代やほかの地域からあの場所を気に入って家を建てて住み始めた人もいる。アクセスもしやすい。学校も近い。千厩高校のグラウンドの数百メートルのところに施設をつくることは法的には問題がないかもしれないが、本当にそれでいいのか。一関市にはたくさん場所があるはずである。あの場所が最適というのはどう考えてもおかしい。25年後、30年後、その先の一関を考えたときに、あの場所が最適であるのかどうか、ぜひ考えていただきたい。一関市の中に処分場が必要なのは当然である。自分たちが出したごみを処分しなければいけない。問題なのはその場所と選定方法が周りから見ておかしい点である。一関市としてどういう方向性を持ってまちづくりをしていくのかをもう一度考えて、示していただきたい。

事務局 お話の内容は、子供たちの未来と環境を守る会からいただいた質問内容に網羅されていると思った。様々な意見はあると思うが、最終処分場は公害が発生する施設ということが根底にあり、近くに置くべきではないという認識を持たれていると思ったところである。施設見学でご覧いただければ周辺環境に悪い影響を及ぼすという状態にはないことが理解いただけると思う。ぜひ、今後も施設見学会などを開催するので、どういう状態であるか、実際に見ていただきたい。

参加者 今回の施設は管理型最終処分場だと思うが、これは汚泥、動物の死体、植物性残渣、糞尿、タールピッチ類などの廃油などを持ってくる予定だと思う。一番気になるのは、放射能物質を含んだ汚泥はまだ処理ができずに狐禅寺に置いてあると思う。それを千厩に持ってくるのがないのかどうか。建設の廃材なども持ってくると思うが、遮水シートは面に対しては強いかもしれないが、点に関しては弱いと思う。必ず漏れたりすると思うが、それで万全な体制と言われても、本当に100%安心安全なのかも気になる。それから風評被害である。まちづくりの観点で、総合的に判断して欲しい。私も商売をやっているので、千厩イコールごみ処理施設のようなイメージになると思う。ごみ処理施設はやはり汚いというイメージで、組合の皆さんが丁寧に説明してこういう施設だとわかって、興味がない方にとってはそういうイメージしか残らない。機械的な数値で北ノ沢が一番とされているが、まちづくりの観点から見てもらいたい。自分たちの子供や未来につなげていかないと駄目であり、今だけの問題ではない。

事務局 今のような話に関して説明をさせていただくのがこの会である。今いただいたことについて、これから1点1点説明をさせていただくが、そのようなことを説明することによってイメージを変えていきたいと考える。そのようなイメージを持たれたとすれば、行政側の説明が足りないのかもしれない。だからこそ、説明をして理解をいただけるようにするという立ち位置である。

事務局 最終処分場の埋立物に、タール、汚泥、動物の死骸などは含まれない。そのような最終処分場もあるかもしれないが、組合の最終処分場への埋立物はお手元の資料にあるとおり焼却残渣、不燃残渣、不燃物であり、本日はサンプルを展示している。放射性物質の話は、一関清掃センターから発生した、当時8000ベクレルを超えている焼却灰のことだと思うが、10年が経過したことから、昨年、国が改めて放射線量を測定したところ、8000ベクレルを下回っていたため、令和3年度から処分を始めている。令和4年度に完了する予定である。ただし、8000ベクレルを下回っていない灰を包んでいたシートがコンクリートボックスにして2個分相当あり、それは処分しない。従って、新しい最終処分場に埋め立てすることは

ない。それから、廃棄物処理のイメージがよくないということについては、私ども周知の努力、広報の努力、廃棄物処理に対するイメージを払拭するような活動の努力が足りないと感じた。改めて力を入れて理解を得るよう対応したい。

事務局 遮水シートには突き刺し試験というものがある。それでも懸念があるということで漏水検知システムが開発されている。遮水シートも二重にする、さらに漏水検知システムを入れる、シートの強靭さも規格があるので、規格以上のものを入れて、安全を確実なものにして施設をつくる。

参加者 ここでは質問が浮かばなかったが、家に帰ってから思い浮かんで聞きたいときの連絡先窓口や方法を教えてほしい。

事務局 電話番号は21-2111になる。一関市役所につながるの、広域行政組合の総務管理課又は内線番号8751とお伝えいただければ私どもにつながる。直接お話ししたいということであれば組合の事務所にお越しいただければと思う。組合の広報紙にも連絡先を掲載している。

参加者 本日の質疑では、なぜここなのかという話が多かったが、4つの候補地から1つに絞り込んだときの具体的な資料を開示して、具体的に説明していただければ、もっといいと思った。

事務局 その点は昨年12月に発行した広報紙に掲載していた。もっと詳しく知りたい場合は、最終処分場整備候補地選定結果という報告書にまとめており、組合ホームページに掲載している。手数料はかかるが資料を送付することもできる。

参加者 何が何でもこの地域に建設したいというような姿勢が感じられる。ほかの地域でも反対や問題が起こり得ると思うが、ここではないと思う。

事務局 こういう説明会では反対の意見が多いということは認識しているが、一方では賛成の意見の方がいることも事実であるので、全体を見て判断していくことが大切だと思う。今は説明をしている段階であり、賛成、反対というよりは何が不安なのか、どんな心配があるかお聞かせいただいて、それに対して組合でどういう対策をするか示させていただきたい。

参加者 この千厩の皆さんに理解してもらうには、今の段階ではなく4か所に絞った段階でこのような行動に移して欲しかった。4か所に絞られたのは仕方がない。4か所に絞った時点で、千厩地区住民向けの説明会を開いて、理解を深めたいうえで最終的に1つに絞るべきだったと思う。広報に載せたというが、それで全員が知ることではない。もう千厩だけに決めたので、理解してほしいというのは間違っていると思う。

事務局 広報は見ないという意見もいただくが、組合として皆さんに広く周知する方法

として、広報やホームページへの掲載といった手段から始めさせていただいた。令和元年11月から広報を発行し、今まで9回発行している。候補地を4か所選考したという時点からスタートしている。その段階で令和元年12月に説明会を開催しており、千厩でも開催している。その後も千厩を会場に開催している。知らなかったという人が多いという意見をいただくのは確かである。説明会の開催は、毎回報道機関にもお知らせしており、地元の新聞には比較的報道していただいていると思っている。新聞にも載せるべきとか、チラシを全世帯に配るべきという意見もいただき、周知が足りないことに対してはある程度対応してきたと思っていたが、まだまだ足りないと思った。

10 担当課 総務管理課

千厩地区説明会要旨

1 説明会 一般廃棄物最終処分場の整備に関する千厩地区説明会

2 開催日時 令和4年3月6日（月）午前9時30分から午前11時26分まで

3 開催場所 千厩保健センター

4 参加者 17人(傍聴者は、一関市議会議員2人、岩手県議会議員1人)

5 事務局

石川隆明副管理者、村上秀昭事務局長、小野寺啓総務管理課長、

千葉晃一関清掃センター所長、菅原彰大東清掃センター所長、

吉田健総務管理課施設整備係長、石川勝志総務管理課主任主事、

Web参加 一般財団法人日本環境衛生センター5名（以下、日環センター）

6 説明

(1) 候補地選定の経過について

(2) 一般廃棄物最終処分場整備基本計画（案）の概要について

(3) 今後の予定について

7 あいさつ

本日は、新最終処分場の千厩地区説明会ということで開催をさせていただいた。

最終処分場は、現在、管内に3か所あるが、その残容量が少なくなっているため、生活に欠かすことができないこの施設を次の世代につなげるために整備しようとしている。

組合では、施設整備を進めるに当たり、住民の皆様の理解を深めていただくことが何よりも大切だと考え、広報紙の全戸配布による周知だけでなく、地域に出向いて説明会を開催している。

説明会は、対象者別に4つの区分で開催している。一つ目は建設候補地の土地所有者を対象とした説明会。二つ目はその周辺の自治会の皆様に対する説明会。三つ目はもう少しその周辺自治会から範囲を広くとらえた地区での説明会。そして、組合管内の住民の方であればどなたでも参加できる住民説明会である。

本日は、地区説明会であり、改めて候補地選定の経緯と現時点の施設整備基本計画の概要について説明する。

皆様には率直なご質問やご意見をいただきたい。

8 説明内容

(1) 候補地選定の経過について

配布資料に沿って事務局が説明を行った。

(2) 一般廃棄物最終処分場整備基本計画（案）の概要について

配布資料に沿って事務局が説明を行った。

(3) 今後の予定について

配布資料に沿って事務局が説明を行った。

9 質疑応答

参加者 最終処分場の計画の事業主体は一関市なのか。市議会も関わって進めているか。我々には議会からそのような説明はない。予算が市から出るのに市議会の了承を得なくてもやれるものなのか。

事務局 この事業は、一関市と平泉町で構成する当組合が事業主体になる。この事業の予算や議案を審議していただくのは、組合の議会になる。組合に対する負担金といった予算は、市や町の議会で審議いただく。

参加者 本日の説明資料にはない部分だが、前に配布されている資料では4つの対象候補地で地権者数は5人から28人、筆数は8筆から47筆と幅があるが、北ノ沢地区の想定地権者数と想定筆数について伺いたい。

事務局 基本的には整備する範囲はまだ確定していないので、まだ地権者ということではなく、少し広い範囲で候補地周辺の土地所有者の皆様に案内をして、土地所有者説明会を行っており、26人前後に案内している。筆数は今手元に資料がない。

参加者 4つの候補地の中では、想定地権者数が比較的多いようだが、想定地権者に対する説明会の開催や登記簿謄本を見て住所や名前を確認されたと思うが、その方々が実際にそこに住んで実在していることを確認しているのか。

事務局 今年度に地形測量や地質調査を行うために、土地所有者を登記簿で確認して連絡を差し上げ、調査への承諾をお願いした。返信をいただいているので実在していると思っている。亡くなられている方がいるかもしれないが、その住所にお送りして返信をいただいているので、相続の権利をお持ちの方が返信していただいているものと理解をしている。

参加者 今後の事業の進行に当たって、そのような場合は相続人を調べて、相続人からも同意をもらうということが必要になってくると思う。以前に配布された資料の中には、地権者数は特に支障がないとあったが、本当に支障がないのか若干疑問に思った。こういう評価をした理由を聞かせてほしい。

事務局 公共施設を整備する場合、地権者数はあまり問題にしない。数百人規模であれば考慮することもあるが、数十人程度であれば事業を進める際には一般的に通常の手続きとして行っているため、特に問題はないと考える。ただし、相続の状況などは、それぞれのご家庭の事情があるかもしれないが、そのような場合でもき

ちんと手続きとって進めて参りたい。

参加者 放流水の放流は、1日に何回、月に何回、年に何回という形になるのか。

事務局 浸出水処理施設の処理能力は日量120m³と計画しており、放流量の変動はあるが、24時間連続して日量120m³の範囲で放流されることになる。

参加者 放流水によって放流先の水路に何か被害が生じたというような事例はあるか。

事務局 放流によって被害が生じたという事例は聞いたことがない。現施設でも計画放流水質よりかなりきれいな水質で放流されおり、問題はない。

参加者 放流する川の大きさや幅などの大小に関係なく、安全ということによいか。

事務局 ある程度の川には環境基準がある。今後、生活環境影響調査を行い、環境基準が十分クリアされることを前提に放流水質を決める。水量も同様である。

参加者 これからの気象は過去のデータは通用しなくなっている。大きな災害も全国で起きているが、想定外の災害が起こったときの対応まで計画を立てているのか。

事務局 降雨量については、設計指針では15年以上となっているものを倍の30年の期間をベースに算定している。実際はかなり余裕のある施設になると思う。想定以上の豪雨が降ったとしても、内部貯留される許容量もある。雨水の放流も下流側の排水能力を条件として、安全に設計していくことになる。

参加者 漏水検知システムは、停電になっている間に漏水が起きる場合もあるかと思うが、その際にはバックアップするような仕組みになっているのか。

事務局 充電装置など停電のことは十分に考えて設計しており、施設をつくるときには電源を止めて試験を行い、停電時のシステムの稼働を確認する。停電に関しては十分対応できる装置になっている。

参加者 遮水シートは耐用年数が何年かと、もし破れたときの対応方法を教えてほしい。いろいろな資料を読んだが、破れた場合の対応が難しいとあった。

事務局 遮水シートの耐久性は、地中では半永久的で、少なくとも処分場が何十年後かに廃止手続きになるくらいの期間は十分もつ。地表では紫外線への対応として保護マットを設けることとされている。遮水シートが破れるケースは頻繁にはないが、実際に補修をした事例はある。電気式の漏水検知システムであれば、位置がスポット的に検出されるので、その場所を掘り起こして補修する。

参加者 北ノ沢に候補地を絞り込んだ過程を組合の市議会議員たちに説明して、納得をして市議会議員たちが決定したという理解によいか。

事務局 このような大きな事業を進めるときには、その都度、議員全員協議会を開いていただき、内容を説明している。組合のみならず、一関市や平泉町の議員全員協議会でも情報共有させていただいている。そこで決をとることはないが、このよ

うな状況であることを説明して意見をいただいている。絞り込んだのは組合の執行側、管理者側であり、執行側でこのように評価をして絞り込みをしたということを経済に報告している。

参加者 候補地選定に関して、1月29日の岩手日報の県南版に載っていた。疑問に挙げられていた近くに住宅地や千厩高校があり、町中心部からも比較的近い場所を候補地とした理由について、現在の最終処分場と同様、立地が市街地であるかどうかにかかわらず、適切に管理運営するというような答えになっている。答えた内容、新聞を見る限りはかみ合っていないと感じるが、組合としては、住民の理解を得るために十分な説明をした、理解を得られるという考えか。

事務局 1月25日に子供たちの未来と環境を守る会の代表に回答書をお渡しした際の記事と思う。その中で、基本的に人家がある市街地につくるものではないと考えるがその認識があるのかという質問に対する回答として、最終処分場の管理運営については、現在も施設の立地条件に合わせて適切に一般廃棄物処理や最終処分を行っている。新最終処分場についても現在の施設と同様に立地が市街地であるかどうかにかかわらず、立地条件や立地場所の条件に合わせて適切に管理運営を行って参りますという回答書の内容をお伝えした。最終処分場は、公害が発生するような施設ではないので、周辺に影響のない形で現在の最終処分場と同様に対応できるという回答をさせていただいた。

参加者 私はこれ読んでどうもよくわからない。噛み合っていない感じがした。一般の読者はそのように受けとめた方が多いのではないか。組合のホームページに載っている回答書の全文を読んだがやはりよくわからないというのが実感である。丁寧に説明をするというのであれば、もっと親切に回答をさせていただいた方がいい。いずれ、一関市と平泉町のどこかに施設をつくらなければならないということは、我々市民全員が理解している。行政としては、事業の関係者に理解をいただいで協力していただくために今回の説明会もやっていると思うが、住民の疑問に対してもっと丁寧に説明をして、理解を得ることが大事ではないかと思う。

組合広報紙のくらしの情報の2021年12月号に選定の経緯が載っている。1次選定で機械的選定をして、第2次選定の絞り込み条件で、学校、公共施設等からの距離という条件を付して687ヶ所に絞り込んだ。さらに比較評価項目の評価で687ヶ所から19ヶ所に絞った。さらに3次選定で19ヶ所から8ヶ所に絞って、8ヶ所から4ヶ所に絞り、最終的に1ヶ所絞ったという流れがある。いきなり4つから1つを選んだわけではなく、一関市と平泉町の全域から選定をして、最適の場所はどこであるという選定をしているところを丁寧に説明していったほうが良い。そ

ここで伺いたいのは、令和2年11月28日の岩手日日新聞に、弥栄にごみ処理施設、最終処分場は千厩というようにある。ここの解説で、候補地はいずれも外部有識者による選定委員会の2次選定段階で、住民から情報提供された場所であると載っているが、この記事は本当かどうか。

事務局 候補地選定の段階で情報提供をいただいていたという意見があった。結果18件の情報提供があり、その中に千厩と弥栄もあった。

事務局 ホームページで候補地選定の経過や検討委員会の資料、会議録はすべて公開している。情報提供の部分については、候補地選定委員会での評価項目の土地取得の容易性という項目で評価している。従って候補地選定作業を進める中で情報提供をいただいたが、情報提供いただいた中から4か所を選んだということではなく、選定の流れの中で、土地取得の容易性として情報提供のあったところは評価し、加点するというような評価となっている。

参加者 住宅地に近いことが市民の大きな心配であるが、そういう場所を選定した経過を理解できるように丁寧に説明してほしい。4つから1つに絞り込んだ最終段階だけではなく、段階を踏んでやってきたことを十分説明して理解いただかないと、なかなか進まないと思う。住民の理解を得て事業を円滑に進めていくということに取り組んでいただきたい。

事務局 今回は凝縮した形で説明をしているが、最終選考候補地4か所を選定するまでの経緯や、最終選考候補地4か所を建設候補地1か所に絞り込むまでの経緯は、これまで住民説明会などで段階的に行ってきた。また、広報でも建設候補地を絞り込むまでのダイジェストを掲載し、周知に努めてきた。今後も不足な部分は説明を尽くしていきたい。

参加者 先月に周辺自治会の説明会があり参加したが、そのときに千厩高校の、生産技術課の来年度の募集倍率の話をした。それだけ来年度は千厩高校の生産技術科で勉強したいというお子さんが多いなと感じた。これから勉強して、未来の子供たちが仕事をしていけるように千厩高校で勉強したいと思っていると思うが、本当に安心安全なのか。距離は全然関係ないという話も聞いているが、やはり不安がある。安心安全をお願いしたい。

事務局 施設整備に当たり、皆さんが抱えている様々な不安があると思い、説明をしている。何が不安なのか、例えば臭いがあるのではないかと、地下水に影響があるのではないかとといったような話をいただければ、こういった対応をすることによって解消できるという説明ができると思う。

参加者 いろいろな解釈があってもいいとは思いますが、一番こたえたのは、地域の若い人が

千厩を悪くしたのは今の年寄りだと。もう引っ込んで次の世代に渡せと。これ以上悪くしないで渡してくれという話を聞いて愕然とした。なるほどそのとおりだと思う。昨日の説明会で若い人が2人ほど発言したそうだが、そのような人たちが千厩町を背負っていくことになるので、何とかこれ以上悪くしないで、千厩町を次の世代に渡していきたいと思っている。

事務局 私どもは、整備にあたっては周辺環境に影響のないように努めるので、若い方々にも迷惑をおかけしないように進めさせていただきたいと思う。

参加者 北ノ沢に最終的に絞り込んだのは、組合の皆さん方だということであった。市民生活の基盤が近い北ノ沢に候補地が絞り込まれた理由が、土地取得の容易性という観点からではおかしいと思う。一からやり直していただくことを望む。

事務局 土地取得の容易性だけで候補地を決めたのではなく、先に説明させていただいたとおり、比較評価項目の中の一つの項目である。取得が容易だから、情報提供をもらったからこの場所にしたということはないので、誤解のないようお願いしたい。

10 担当課 総務管理課